

阿智村商工会 会長 浜島弘尚

阿智村は長野県の南端、下伊那郡の西部に位置し、北は長野県木曾地域、西は恵那山を境として岐阜県中津川市に接しています。

阿智村の観光の中心である「昼神温泉」は健康保養地型温泉であり、その泉質から「美人の湯」といわれ人気が高く、年間70万人余の観光客が訪れる南信州随一の観光地です。

また、毎日「朝市」も行われ、昼神温泉の名物となっています。

浪合地区は、「日本一美しい満天の星空」と環境省から認定された地であり、標高1200mの治部坂高原は、夏は「100万本のコスモスガーデン」冬はスキー場と季節ごとの自然を満喫できます。

清内路地区の「手づくり花火」は、300年近い歴史のある伝統花火で、全国でも唯一、住民が火薬から花火を製造しており、秋には上清内路、下清内路の神社でそれぞれ奉納されます。

阿智村は、古くからいくつもの街道が交わる要所であり、岐阜県と県境を接する「園原の里」は、県歌「信濃の国」に歌われ、万葉時代からの東山道の道筋で、数多くの古歌や伝説など秘めています。

江戸時代から、中馬と呼ばれた馬が、海のない信州へ塩や海産物をもたらした街道は、中馬街道として親しまれており、また、伊那谷と木曾谷を結ぶ「はなもも街道」は5000本の花桃が植えられ、春には村内各地、多くの観光客で賑わいを見せています。

阿智村商工会は、昭和35年に設立され、以来、地域の商工業発展のために様々な事業展開をしてきました。

近い将来実現する、リニア中央新幹線の開業と、同時期に全線開通が見込まれる三遠南信自動車道が、南信州地域にとって大きな交通革命、千載一遇のチャンスが到来しようとしています。

阿智村の視点で見ると、リニア中央新幹線長野県駅と岐阜県駅のちょうど中間に位置し、三遠南信自動車道の起点となる山本ICとの近接や、中央道園原ICの立地も含め、阿智村を取り巻く高速交通網は革新的に向上することとなり、観光客を呼び込む絶好の機会となります。

今、商工会に必要とされるのは、大きな変革を的確かつ前向きに捉え、将来に有機的、戦略的に結びつける具体的な行動です。

新しい高速交通時代を見据え、昼神温泉を中心とした観光産業の振興により、交流人口の拡大を図るとともに、観光業と住民・各産業を有機的に連携させることで産業を振興し、雇用の創出により、持続可能な村づくりを目指します。

阿智村商工会は、三遠南信地域の関係機関と連携し、この厳しい経営環境の中でも地域住民の生活を支え、地域に根差した商工業の経営を持続発展させ、新規事業の起業等により、持続可能な村づくりを進めます。